

IT パスポート受験講座

情報処理技術者試験の第一歩である IT パスポートに合格して
基本情報技術者試験へステップアップしよう

講座の特長

- ・基礎知識の定着と反復演習をバランスよく配置して短期間での合格を目指します
- ・社会人となってから役立つ知識やスキルを先取りして学習できて就職活動にも有利です

【IT パスポート試験の位置づけ】

IT パスポートは国家試験である情報処理技術者試験の一つで、最も基礎となる試験（レベル1）に位置づけられています。基本情報技術者試験がIT パスポート試験の上位（レベル2）に位置づけられていることから、本講座を通じてIT パスポートに合格し、その後、翌年4月から始まる基本情報技術者試験講座へとステップアップするのが理想的です。

【IT パスポート試験の特徴】

ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの系統から合計で100問の問題が出題され、2時間の試験時間で解答します。総合評価点が満点の60%以上に到達し、かつ3つの系統の分野別評価点が分野別に設定された満点の30%以上に到達すれば合格となります。コンピュータに関する知識を問う問題と、企業経営や法務について問う問題がほぼ半々で出題されており、両者をバランスよく学習する必要があります。合格率は概ね50%前後で、合格率は比較的高い試験です。

IT パスポート試験の大きな特徴として、CBT（Computer Based Testing）方式による試験を実施しているため、ほぼ毎週土曜日または日曜日に宇都宮市内のいずれかの会場で試験を受験することができます。

【この資格はどのように役立つか】

IT パスポートは社会で活躍するビジネスマンになるために身に付けておきたい最低限度のITや経営に関する知識を問うための試験ですから、試験範囲を一通り学習すると、コンピュータに関する基礎知識や企業経営や法務に関する基礎的な知識を身につけられます。これらの基礎的な知識を有していることは、就職活動で有利に働くだけでなく、社会人となってからも様々な場面で役立ちます。また、経営学部の学生は大学の授業の内容と重なる部分が多いため、理解がより進みます。

講師紹介・メッセージ

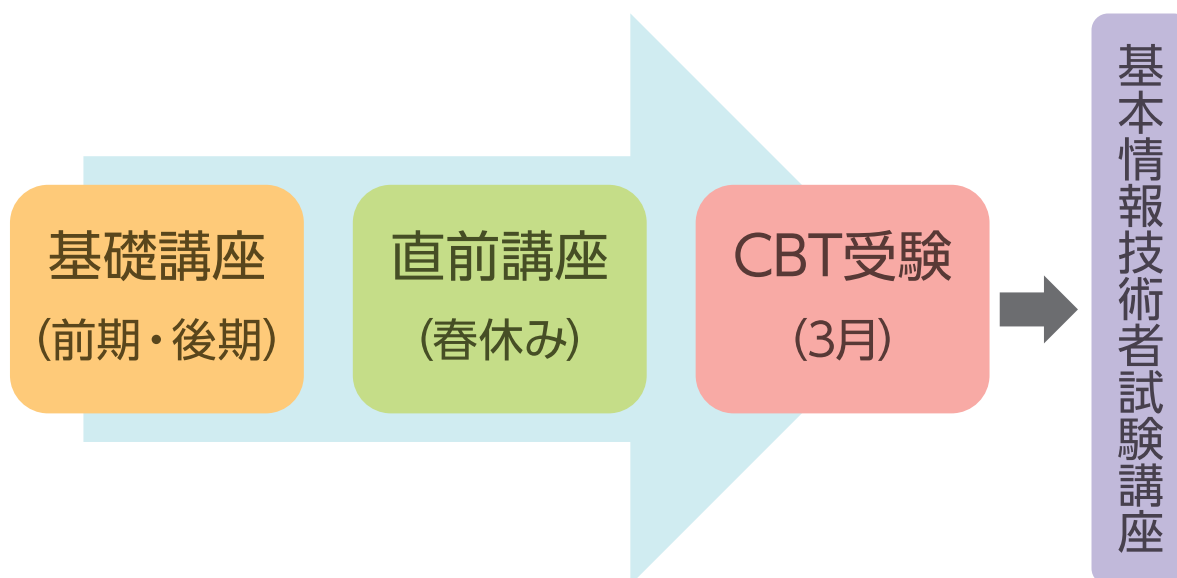


高橋 秀行（作新学院大学経営学部教授）

経営学部専門科目と共通教育科目にて、経営情報論、コンピュータシステム基礎、データベース概論、情報ネットワーク論など担当。「試験範囲は広いですが、決して難解な理数系試験ではありません。コンピュータの仕事のやり方を勉強しましょう！」

【講座イメージ】

前期と後期に基礎講座、春休みに直前講座を受講し、3月中に CBT 方式で行われる本番試験を受験します。IT パスポート試験に合格後は、翌年4月から始まる基本情報技術者試験講座を受講し、さらに上位資格である基本情報技術者試験合格を目指すのがお勧めです。



【講座内容】 IT パスポート受験講座の各回授業での学習項目です。

IT パスポート受験講座		
	基礎講座 (前期・後期)	直前講座 (春休み)
1	ハードウェア① (5大装置とCPU、メモリ)	過去問演習① 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
2	ハードウェア② (入出力装置、基数変換と補数)	過去問演習② 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
3	ソフトウェアとマルチメディア① (ファイル管理)	過去問演習③ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
4	ソフトウェアとマルチメディア② (表計算)	過去問演習④ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
5	システム構成	過去問演習⑤ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
6	ネットワーク	過去問演習⑥ 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
7	セキュリティ	模擬試験① 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
8	データベース	模擬試験② 模擬試験形式の答案作成と解答・解説
9	アルゴリズムとプログラミング	直前講座は8回で終了となります
10	マネジメント① (システム開発、テストと運用・保守)	
11	マネジメント② (プロジェクトマネジメントと工程管理)	
12	企業活動と法務① (企業会計)	
13	企業活動と法務② (知的財産権、関連法規)	
14	経営戦略とシステム戦略① (全社・事業・機能別戦略)	
15	経営戦略とシステム戦略② (情報システム戦略)	